

和漢朗詠集

二



武卷之肉

和漢朗詠集上

春

立春

早春

春興

春夜

子日付石菜

三月三日付桃

暮春

三月盡

潤三月

鶯霞

雨

梅付紅梅

柳

花付花

躑躅

欵冬 藤

三夏

更衣 首夏 三夏夜 端午

納涼 晚夏 花橘 蓮

郭公 螢 蟬 扇

秋 稗 稗 土

立秋 早秋 七夕 秋興

秋晚 秋夜 八月十五夜 付月

九月九日 付菊 九月盡 女郎花

萩 蘭 槿 前栽

紅葉 付落葉 鴈 付歸鴈 虫 鹿

露 霧 擣衣

冬

初冬

冬夜

歲暮

爐火

霜

雪

冰

付春

霰

佛名

三昧

早

八

殊

春

立春

逐吹

潛開不待

芳菲之候

迎春

乍變將希

雨露之恩

公景億

池凍東頭風度解窻梅小面雪封寒

葛茂

柳無氣力條先動池有波文冰盡開

左京之方

柳無氣力條先動池有波文冰盡開

日居易



今日不知誰計會春風春風一時來

夜向殘更寒磬宵春生香火曉爐燃

融ひらけ

少とく

早春

早春

氷消田地蘆錐短春入枝條柳眼低

先遣和風報消息續教啼鳥說來由

白

良春道

此堂

三ノ

元稹

白



東岸西岸之柳遲速不同南枝小枝之梅
カイラク 開花已異

素塵嫩蕨人拳手碧玉寒蘆錐脫囊
コダシ 野相公

氣霽風梳新柳髮冰消浪洗舊苔鬚
キハレカ 都良香

庭增氣色晴砂綠林變容輝宿雪紅
ニハニ 紀納言

定也...
シキ 土貴

保卷

こやせはけはんのかるわふ雪きし
つりのまほしうくつらありふらあり
見らるるもやちんはくはくとこまき
みやうせまを乃にけきちうとひ

春興

花下忘歸因美景樽前勸醉是春風
白

野草芳菲紅錦地遊絲繚亂碧羅天
劉禹錫

歌酒家花處空管領上陽春
白

山桃復野桃日曝紅錦之幅門柳溪岸柳

多子面堂

春性

風宛翹塵之絲

紀齊名

著野展敷紅錦徧當天遊織碧羅綾
野相公

林中花錦時開落天外遊絲或有無
田達音

笙歌夜月家思詩酒春風處情
管三品

もーおのねあまを人といふはれや
あはれはれはれはれはれはれはれはれ
あはれはれはれはれはれはれはれはれ

春夜

春夜

春人

宵燭共憐深夜月踏花同惜少年春白

いづかののちのやとあやけしむのふ
いづしそくそく糸かやハかくは

子日 付 若菜

倚松樹以摩腰習風霜之難犯也 和菜寒

而啜口期氣味之克調也

倚松根以摩腰千年之翠滿手折梅花而

挿頭二月之雪落衣

尊敬

糸のひりふ志あつてのほ小松
ひくくやちとれうきとんや
れのをすりのしこふのなるをハ
らじれもあつてにやとひつし
らじやうくろされふねとくふらけ
まアうひつれり了代や 終身

若菜

野中毛菜世事推之蕙心爐下和羹俗人

属之蕙指

あまかきけりふかひつしむのふ
いづしそくそく糸かやハかくは

菅丞相

何處方々...
 赤人
 三月三日 付桃

春來遍是桃花水不辨仙源何處尋 王維
 宵之暮月三朝天醉于花桃李之盛也
 我君一昨之澤万機之餘曲久雖遙遺塵
 絕書巴字而知地勢思魏文以散風流

蓋志之所之謹獻少序云尔 菅
 煙霞遠近應同户桃李淺深似勸盃 菅丞相
 水成巴字初三日源起周年後幾霜 菅馬茂
 礙石遲來心竊待牽流過手先遮 菅雅規
 桃
 夜雨偷濕曾波之眼新嬌曉風緩緩吹不言
 之唇先暖

紀納言



夕陽の影を
 小舟にうつし
 水鏡に照らす
 春の心

暮春

拂水柳花千方點隔樓鶯舌兩三聲元稹
 低翅沙鷗潮落曉亂絲野馬草深春菅丞相
 人無更少時須惜年不常春酒莫空小野篁
 劉伯若知今日好應言此處不言何源順
 夕陽の影を
 小舟にうつし
 水鏡に照らす
 春の心

源順



三月盡

留春々不駐春歸人寂寞風々不定風
起花蕭索

竹院君閑消永日花亭我醉送殘春同

惆悵春歸留不得紫藤花下漸夕昏同

送春不用動舟車唯別殘鶯與落絮
菅承相

若使韶光知我意今宵旅宿在詩家

白

鑽沙草只三分許跨樹雷繞半段餘
菅丞相

まじれりしうらうらけりしうらうら
人

かきりしうらうらけりしうらうら
赤人

けりしうらうらけりしうらうら
五

雨

或垂花下潛增墨子之悲時舞鬢間暗動
都在中

藩即之思

長樂鐘聲花外有就池柳色雨中深
李嬌

客得自為花父母洗來寧辨染君臣
紀納言

花新開日初陽潤鳥老歸時薄暮陰
菅三品

斜脚暖風先扇處暗聲朝日未晴程
保胤

わがやまの枝にのれりしうらうら
保胤

梅付紅梅



白片落梅浮澗水黃梅新柳出城墻
 梅華帶雪飛琴上柳色和煙入酒中
 漸薰臘雪新封裏偷綻春風未扇先
 青絲絲出陶門柳白玉裝成庾嶺梅
 五嶺蒼々雲往來但憐大庾萬株梅
 誰言春色從東到露暖南枝花如開

白居易

章孝標

村山清

後江相公

詩
七言絕句

菅三郎

安倍廣庭

いみじくも梅の影をうけてはけふさきさきとてはかり



竹のこゝろに人をもと思ひしむのふ
 それもさうさう乃ちやけりけり
 かとともくくられぬさうさう梅のふ
 ほやあ〜〜〜〜〜

紅梅

梅ハナ含フク雞ニ古コ兼ニ紅ベニ氣キ江エ弄ウツ瓊ユキ帯オビ碧アヲ文フミ 元ハツ鎮シ
 浅シ紅ベニ鮮ニ妍カ仙セン方ハタ之ノ雪ユキ依ヨ色シロ濃ニ香カ郁ウツク妓メ爐ロ

之煙讓薰

有アリ色イロ易ヨク公キミ殘ノコ雪ユキ底ソコ無ナシ情ナラシ難ガタシ辨シ夕ユフ尚ナ中ナカ

兼明
 橋正通

仙日風生空皴雪野爐火暖未揚煙 紀齊名

更何處吟箏柱墻柳作家曝麴塵白 友別

柳

漸欲拂他騎馬未多遮得上樓人 絶句詩

巫女廟花紅似粉昭君村柳翠於眉 絶句詩

林鶯何處吟箏柱墻柳作家曝麴塵白 絶句詩

冰知老去風情少見此爭世一句詩 白

未開豈趁紅艷 紀納言

雲擊紅鏡板桑日春媚黃珠嫩柳風 田達音

愁宅迎曉庭月暗陸地逐日烟深 後中書王

潭心月泛交枝桂岸口風來混葉嶺 管三品

あそやうなれいしんしんしんしんしん 多洋

しるふとれはさくらさくら花さくらさくら乃
つしりあはれさくらさくらさくらさくら乃
何とや実のさくらさくらさくらさくら乃
さくらさくらさくらさくらさくらさくら乃

花 付落花

花明上苑輕軒馳九陌之塵猿叫空山斜
月瑩千巖之踏

長讀

池色溶々藍深人花之爛々火燒春白
遙見人家花便入不論貴賤與初疎白

瑩日瑩風高低千顆萬珠々玉染夜染浪
表裏一入再入之江

管三品

誰謂水無心濃艷臨兮波變色淮柳花不
語輕漾激兮影動層

管三品

欲謂之乃則漢女施粉之鏡清瑩欲謂之
花亦蜀人濯文之錦粲爛

順

織自何絲唯暮雨裁無定樣任春風

管三品

花飛如錦 效濃粧 織者春風 未豐相

源英明

始識春風 機上巧非唯 織色織芬芳

同

眼貧蜀郡 裁殘錦耳 倦秦城調 中箏

源相規

垂のふりにきりてさくさく此まうととけ

新

くふれくらののさるるのさるるのさるる

新

ちりりれやいほりいひりりりりりりりり

新

落花

落花

落花不語 空辞树流 无心自入池 白

朝踏落花 相伴出暮 随飞鸟 一时 同

春花面 入 酣暢之 筵 晓 鶯 聲 豫 參

講 誦 之 座

漢江相公

落索狼藉 風狂後 啼鳥就 鐘雨打 時

同

離閣鳳翅 憑檻舞 下樓娃 袖 顧 階 翻

菅三郎

さくさくさくさくさくさくさくさくさくさく

菅三郎



多分此海をくまにわつらふらん
 かなしやゆめしん人のいふ
 ことにならねれなるまにわらふらん
 うれはゆらのさくらさくら

夏
 更衣
 浄丸
 芳洋

更衣

背壁燈残経有燭開箱衣帯隔年香白
 生衣欲待家人着宿讓當招邑老酣
 花の色にうたぐり秋はかゝるれ
 くらとくさきまふりてほろりか

菅
 芳洋



首夏ヒトツキ

甕頭竹葉經春熟階底蓄薇入夏開白
ヒツクニホリノチクヨクニヘテハルヲジマシレバシノモトノニヤウジツイナカニヒラカ
 苔生石面輕衣短荷出池山小蓋踈
コケニヤクヒキハニニクタイイニ短シハキヌイテチニニヨリセウガイオロツカニ
 物部安興
 夏の夜のついでに夕やけのあつた
ナツノヨノツいでにゆけのあつた
 暁トキ

夏夜ナツノヨ

風吹枯木晴天雨月照平沙夏夜霜白
カゼフククボクノキテシノアメツキニヒキヘイサナツノヨヲシロ
 凡生竹夜窻間月照松对臺上行白
カゼオウテチクヤニニドクアヒタニツキニヒキヘイサナツノヨヲシロ

空夜窓閑螢度深更竹白月明初
紀納言

夏の虫とれぬはゆきおとよみよし
人丸

わくわくはるやさうさこれいっくよ
同

なみの長いゆきあしをれをほし
多洋

端午

有時當戸危身立竹意故園任脚行
菅

わくこもわくわくあひくるゆき
れ基

きのこくくくくくくくくくくく
納涼

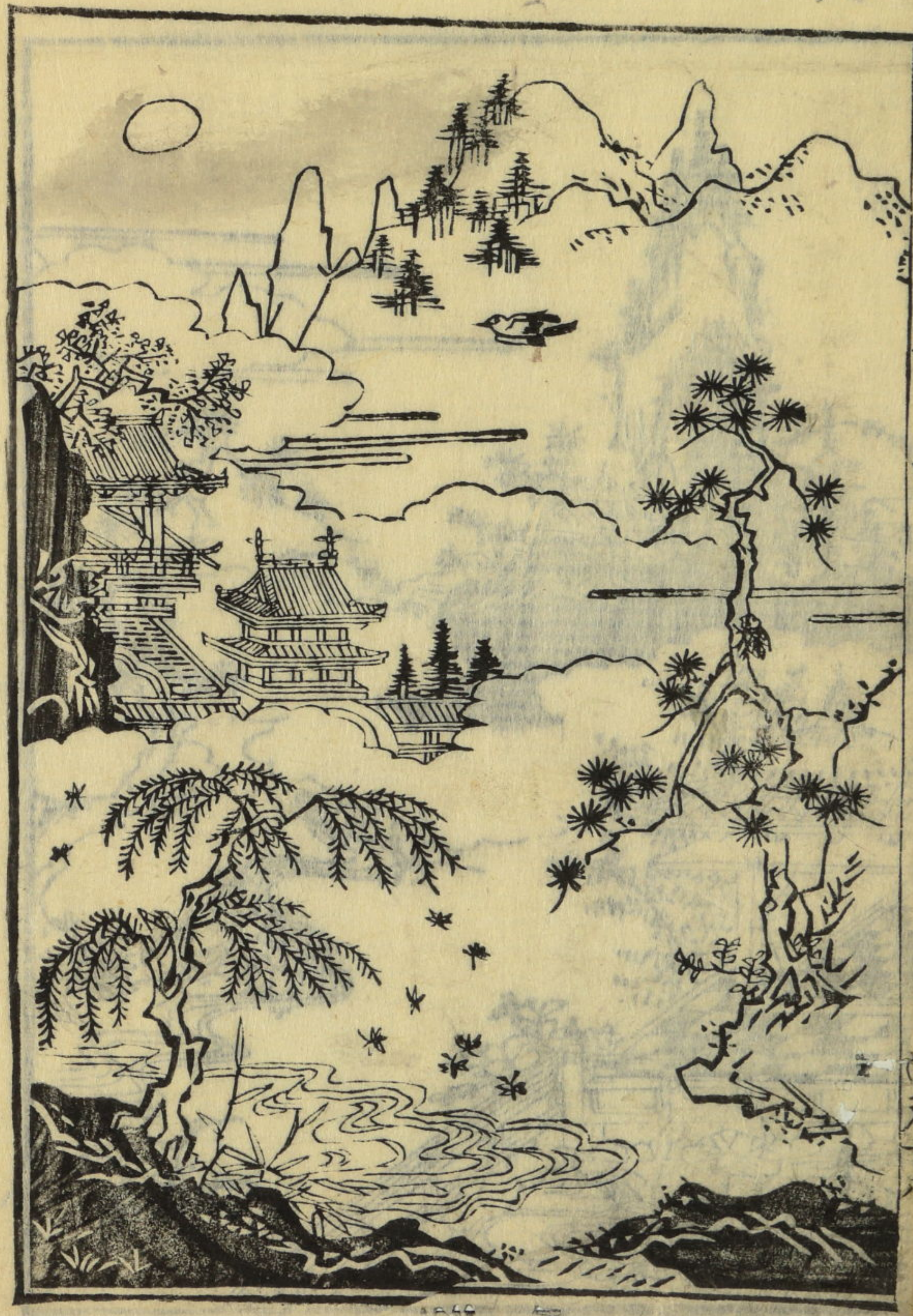
青苔地上消殘雨緑樹陰前逐晚涼
白

露簾清莹迎夜滑風襟蕭涼之秋涼
同

不是禪房無熱到但能心靜即身涼
同

班婕妤團雪之扇代岸風兮長忘燕昭王
昭王

招涼之珠當沙月兮自得
匡衡



蝉

遲トキ々トキ兮トキ春ハル日ヒ玉タマ甃イソ暖ヌク兮トキ温ユク泉スエ溢ト々トキ兮トキ秋アキ

風カゼ山ヤマ蟬セミ鳴ナリ兮トキ宮ミヤ樹ツ紅ベニ

千チ峯ホウノ鳥ト宿ス含フ梅ウメ雨アメ五イ月ツキ蟬セミ聲コエ送ツ麥アヲ秋アキ

鳥トリ下オリテ綠キナンド蕪クワ秦シ苑エン寂サマシ蟬セミ鳴ナリ兮トキ葉エハ漢カン宮ミヤ秋アキ

今コト年トシ異ヘトシ例レイ腸チウ先サキ断タガ不ズ是コト蟬セミ思シ宥ユ意イ悲ヒ

歲トシ去サリ來キタ聽キケ不ズ變ヘ莫ナク言イフ秋アキ後ノチ遂ツキ為ス空カラ

純納言

白

李嘉祐

許渾

菅

かひやよのそひれにすん乃たつて
えらにせせこ乃ととまきこゆ
あけとふよ人ととくたおひひ
ねとるくひりのまきこゆ

扇

盛夏不消雪 終年無風引秋生 手裏藏

月入懷中

不期夜漏初兮後唯散秋風味到前

と川河さすく一寒るれと
河ふきのせはながやロ

人元

静思

白

菅三品

中務

わす北川河ふさ北をに
そるすんもれか
きんくたにやう
たひいおとま

秋

立秋

蕭颯涼風與葉鬢誰教計會一時秋白

鷄漸散間秋色少鯉常趨處晚聲微

秋おぬくそにハヤッふ
うぬれととにそ

五情

中務

保胤

中務

六宮澹々粉飾

公衆億

織錦機中已辨相思之字擣衣砧上俄添

怨别之聲

同上

三五夜中新月色二千里外故人心白

嵩山表裏千重雪洛水高低兩顆珠同

十二迴中世勝於此夕之好千方里外各

爭於吾家之光

紀納言

憶得少年長乞巧竹竿頭上願絲多白

二星適逢未叙別緒依々之恨五夜將明

驚涼風飒々之聲

小野義村

露應別淚珠空流雲是殘粧髻未成

管

風從昨夜聲弥怨露及明朝淚不禁

淺江相公

去衣曳浪霞應濕行燭浸流月欲銷

管三不

河託微波脈且遣意期片月欲為媒

管輔昭



何々の何とときしりしりおのり終と
 子らん竹ちていさしにをゆし
 迎しせにひさしおのりしとセタの
 あひみまほまはりりるまき、わ
 ちししにほあはすれとるふけ
 わる東のちしりしりまけ

の
 秋
 影
 念

秋興

林間カニニ暖酒アタタキサケ燒紅葉ヤキベニ石上イソノ題詩チ拂綠苔ハクキナグサ
 楚思ソノ眇茫ミウマウ雲水ウンスイ冷商聲セイジョウ清脆セイレイ管絃クワンケン秋アキ
 大底オホソコ四時シジ心ココロ愁スエテ苦ク就中スナハチ腸斷チウタン是秋天コノアキノヒ
 白シロ 同ドウ 白シロ

月

誰人隴外久征戎
何處庭前新別離

白

秋水漲來船去速
夜雲收盡月行遲

鄧展

不醉黔中爭在得
摩圍山月正蒼白

白

天山不辨何年雪
合浦應迷舊日珠

三統理平

欲和豐嶺鐘聲否
其奈花亭鶴警何

前中書皇

鄉淚數行征戎
棹歌一曲釣漁翁

保胤





正
二
四

何事もなかりさけこれかたし
 みのこのやまのついでに月も
 ありともいふ秋のむらさき
 かにさへも世に秋のむらさき
 小物もいふものおりに
 川もいふものおりに

九日 付菊

燕エニ知チ社シャ日ジツ 辞シ巢ノ去キ菊キク為タシ重ジュウ陽ヤウ冒マウ雨ウ開ヒラク
 採トク故コ事ジ於オ漢カン武ブ則ニ赤セキ吏シ楠ナン宮キウ人ジン之ノ衣イ尋ジン舊キウ
 跡セキ於オ魏ヱ文ブン亦モ黄ワウ花カ助シュ彭ヘウ祖ソ之ノ術ジュツ

あはれ

新

手

紀

先三運兮吹其氣如曉星之轉河漢引十
分兮蕩彩疑秋雲之迴洛川

同工

谷水洗花汲下流而得上壽者三十餘家
地脉和味食日精駐年顏者五百箇歲同上
い〜世〜つ〜り〜て〜や〜り〜と〜な〜ら〜し〜

中務

菊

霜逢老鬢三分白露菊新花一半笑日

不是花中偏愛菊此菊開後更無花
嵐陰欲壽契松栢之後凋秋景早後朝之

紀綱言

菊之先敗

鄜縣村間皆潤屋陶家兒子不垂堂

三善清行

蘭莞自慙為俗骨權羅不信有長生

保胤

南蕙莞嵐摧紫後蓬萊向月照霜中

菅三品

あ〜る〜川〜は〜し〜ら〜や〜ま〜れ〜る〜

紀綱

曉露鹿鳴花始發百般攀折一時情音

秋のふけさかふとのこがらふるる
わやゆかたのくさけり思
うけらるるにわらへるる
おわらるるにわらへるる
あき此のまにまのけりま
志りのまにまのけりま
人丸 伊勢 毛スゲ え物

蘭

前頭更有蕭條物老菊兼蘭三兩聚白
扶桑宜無影乎浮雲掩而忽昏聚蘭宜不

芳乎秋風吹而先敗前中皇呈

凝如漢女顔施粉滴似鮫人眼泣珠都良香

曲驚楚客秋絃瑟爰断燕姬曉枕薰直轄

わらわらハにわらわらハ秋の
わらわらハにわらわらハ秋の

槿

松村千年竹是朽槿花一日白白

来而不留雍壠有拂晨之露去而不返槿



曾非種處思元亮為是花時供世尊
カツテ 非ニ種ニ處ニ思ニ元亮ニ為ニ是ニ花ニ時ニ供ニ世尊ニ
菅丞相

ちりもはくもふすまきととらまきとら
 いももくもやるとここのなりのなれ
 ぶらりりりりりりりりりりりりりりり
 とくにいりりりりりりりりりりりりりり

紅葉 付 添 葉

不堪紅葉青苔地又是涼風暮雨天
ズ 欠ク 紅ニ葉ニ青ニ苔ニ地ニ又ニ是ニ涼ニ風ニ暮ニ雨ニ天ニ
白

黄纈纈林寒有葉碧瑠璃水淨無風
ク 纈ニ纈ニ林ニ寒ニ有ニ葉ニ碧ニ瑠璃ニ水ニ淨ニ無ニ風ニ
同

洞中清淺瑠璃水庭之荷踈錦繡林
トウ 中ニ清ニ淺ニ瑠璃ニ水ニ庭ニ之ニ荷ニ踈ニ錦繡ニ林ニ
保胤

あつ川りみらふかきつるの
やまの秋風少きそわし
神を月志くれといふらんこれ
もさしれこの紫ハゆりしり
さる人ともさくそわる身心乃
もさるらんこれにまじりま

鴈 付 帰 石

萬里人南去三春鴈心怨不知何年月

與 汝 同 帰

尋陽江色潮添滿彭蠡秋聲鴈引來

劉禹錫

四五染山粧雨色兩三行存
虚弓弦避未抛疑竹上弦之月懸
箭易

杜荀鶴

迷猶成誤竹下流之水急

後江相公

鴈飛碧落書青紙隼擊霜林破錦機

田運音

碧玉粧笋斜立柱青苔色紙數行書

菅三郎

雲衣范竊中贈風櫓蕭湘浪上舟

後中書

秋風みまのりうねるまこむ

友朋



暗遣食草身色變更隨加草德風来

紀綱言

よみならを想ひて葉のやうに
 ちのれをさすやあふれしん
 ちよつてよきそは山に多くあつて
 しののしりや河をなまきり

野津

露

可憐九月初三夜露似真珠月似弓白

露滴蘭蕪寒玉白風術松葉雅琴清

源英明

玉のりこふしうくたけりし

家内



霧

竹霧曉籠街嶺月嶺凡晴送る江春白

雖愁夕霧埋入枕於愛期雲出馬鞍後江相公

あささるる此梅りくはるるくくしめれハ

ささるるのにはささるるはささるるの

擣衣

八月九月正長夜千聲萬聲無了時白

中星前
 檝旅
 鴈南樓
 月下
 擣寒衣
 擣處
 曉愁
 閨月
 冷裁
 將秋
 寄塞
 雲空
 裁出
 還迷
 長短
 製邊
 愁定
 不肯
 腰圍
 風底
 香飛
 發袖
 舉月
 前杵
 怨兩
 眉低
 年別
 思鷺
 秋鴈
 夜出
 聲不
 曉鷄
 冬
 初冬
 劉元叔
 菅篤氏
 直幹
 後中書
 同上
 野
 冬

初冬
 十月
 江南
 天氣
 好可
 憐冬
 景似
 春花
 白
 誰家
 思婦
 秋擣
 帛月
 苦風
 淒砧
 杵怨
 四時
 零落
 三分
 減萬
 物蹉
 跎過
 半凋
 床上
 卷收
 青竹
 簟篋
 中開
 出白
 綿衣
 冬夜
 延喜御製
 菅三郎
 冬夜

一盞寒燠雲外夜數盞温耐雪中春白
年光日向燈前重客思唯從枕上生
思ひのこころのゆくはるのよは
かゝる心もさしこころのゆくはるのよは

歳暮

寒流帶月冷如鏡夕吹和霜利似刀
風雲易向人前暮年月難後老底還
ゆるゆるとこれとゆるゆるとこれと
ゆるゆるとこれとこれとゆるゆるとこれと

爐火

黃醅綠醑迎冬熟絳牋紅爐逐夜開
看無野馬聽鶯鶯膺裏風先被火迎此
應鑽花村取對來竹似有春情
他時縱醉鶯花下近日那離獸炭邊
かゝる心もさしこころのゆくはるのよは

霜

霜

三秋岸雪花初白三秋 岸 雪花 初白 一夜林霜葉盡紅一夜 林 霜 葉 盡 紅
 萬物秋霜能壞色萬物 秋 霜 能 壞 色 四時冬日取凋年白四時 冬 日 取 凋 年 白
 困寒夢驚或添孤婦之礎上困 寒 夢 驚 或 添 孤 婦 之 礎 上 山深感動乞山 深 感 動 乞
 侵四皓之鬢邊侵 四 皓 之 鬢 邊
 君子夜深聲不警君 子 夜 深 聲 不 警 老翁年晚鬢相驚老 翁 年 晚 鬢 相 驚
 拜已斷花亭鶴步拜 已 斷 花 亭 鶴 步 初驚葛履人初 驚 葛 履 人
 晨積瓦溝鴛變色晨 積 瓦 溝 鴛 變 色 夜零霜表鶴吞聲夜 零 霜 表 鶴 吞 聲
紀納言 菅三郎

有と心しと孫とくくさけハと一とそと
 けとひととつとかやとそとくらん

雪雪

曉入梁王之苑曉 入 梁 王 之 苑 雪滿群山夜登庾公之樓雪 滿 群 山 夜 登 庾 公 之 樓
 月明千里月 明 千 里
 銀河沙漲三千界銀 河 沙 漲 三 千 界 梅花開一萬株梅 花 開 一 萬 株 日
 雪似鵝毛飛散亂雪 似 鵝 毛 飛 散 亂 人披鶴氅立徘徊人 披 鶴 氅 立 徘 徊 同
 或逐風不返如振群鶴之毛或 逐 風 不 返 如 振 群 鶴 之 毛 當晴於殘當 晴 於 殘

謝觀



氷付春水

氷封水面無浪雪點林頭見有花音

霜妨鶴唳寒露結孤疑薄有水

おほそそは此月のひろし乃さしむれん
かきとらんしあらんよのいかにひるる

七条后宮

春氷

氷消見多打地雪霽望山有入樓白

氷消漢主應疑霸雪盡梁王不召枚

尊政

